

令和3年度 事業計画について

この事業計画は、学校法人比治山学園中期計画に基づき、
令和3年度の事業計画について重点事業を中心に取りまとめた

① 法人事務局	1
② 大学・短期大学部	2
③ 中学・高校	7
④ 附属幼稚園	8

令和3年3月

学校法人 比治山学園

＜学校法人比治山学園 法人事務局＞

はじめに

学校法人比治山学園は、今年90周年に向けて新たなスタートを切りましたが、これまで建学の精神に基づいて、「悠久不滅の生命の理想に向けて精進」し、社会の発展に貢献できる人材養成を行って参りました。

このような伝統と歴史を有する本学園が、少子化などの厳しい環境が続く中で、引き続き「選ばれ続ける私学」となり、社会の要請や期待に応えて持続的に発展していくため、比治山学園中期計画（平成28年度から平成33年度）を定めています。

I 建学の精神

「悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」人間を育成する。

II ミッション

教育基本法及び学校教育法に従い、悠久不滅の生命の理想に向けて精進する豊かな愛情と科学的知性をそなえた心身共に健康な人間を育成するため、理事会のガバナンス機能の向上等を図り、評議員会と併せてその活性化を進める。また、学校法人として、各部門の責任感を持った運営を促進しながら、同時に、学校法人として統一感を持ったマネジメント機能の向上を図る。

III ビジョン及び事業計画

中期計画の終了年度となる令和3年度の事業計画は、ビジョンの達成に向けて、重点事業を定め、具体的な取り組みを着実に推進していきます。

ビジョン（中期計画）	令和3年度の重点事業	具体策
1 理事会が、そのガバナンス機能を適切に発揮し活性化している	1. 理事会及び理事会運営の在り方の検討	(1) 経営企画課において、他学園の規程等を参考にして理事会運営の在り方を検討するとともに、本学園の経営指針等を示すガバナンスコードを検討・策定。
3 各部門が、部門ごとの責務を自覚したマネジメントが実現しているとともに、学校法人として統一感・一体感を持ったマネジメント機能が向上している	1. 人事政策方針の検討、策定（総人件費抑制、定員管理計画、財政計画、教職員育成等） 2. からまつ学寮の存廃を含めた在り方検討	(1) 経営企画課において、他学園等の情報収集・整理、現状分析・課題抽出、対応策などを検討。
4 開学80周年記念事業が円滑に実施され、新たに90周年に向けた取組がスタートしている	1. 学園創立90周年に向けた取組	(1) 寄付者顕彰制度の推進及び受配者指定寄付金制度の活用推進 (2) 「文化の祭典」の実施

＜比治山大学・比治山大学短期大学部＞

はじめに

急激な社会の変化、とりわけ超高齢・人口減少社会、情報化・国際化・グローバル化社会、労働集約型社会から知識集約型・知識基盤型社会、生涯学習社会など新たな社会が提起する課題に的確に応え、建学の精神・理念（「悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」人間の育成）に基づき、人間性豊かで高度な専門性に裏打ちされた人材を育成し地域に貢献していきます。

令和3年度事業計画は、平成30年度に見直しを行った中期計画（平成28年度～平成33年度）の達成に向け事業を加速していくこととします。

I 建学の精神

「悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」人間を育成する

II 比治山大学

1 ミッション

私たちは、建学の精神のもと、学生の教育に重点を置く大学として、豊かな人間性を培い、生きる力としての汎用的能力（自立・想像・共生・創造）を育み、深く専門の知識及び技能を身につけさせることにより、社会や時代の求める専門職業人を育成し、生命の尊厳と永続性という視点から、グローバル時代を見据え、地域と共生しながら、持続可能な社会の発展に貢献することを使命とします。

2 ビジョン

学生が主体的・能動的に学び、学内外から卓越した教育機関として評価される高等教育拠点となる。

広くて深い教養に裏打ちされた豊かな人間性を培い、汎用的能力（自立・想像・共生・創造）を育み、グローバル化し急激に変化する21世紀に求められる多様文化適応力を身に付けさせ、地域社会や世界の発展に貢献できる幅広い職業人及び専門知識を生かした専門職業人として、中核的人材を育成する。

III 比治山大学短期大学部

1 ミッション

私たちは、建学の精神のもと、学生の教育に重点を置く大学として、豊かな人間性を培い、生きる力としての汎用的能力（自立・想像・共生・創造）を育み、広く専門の知識及び技能を身につけさせることにより、地域のニーズに応える職業人を育成し、生命の尊厳と永続性という視点から、グローバル時代を見据え、地域と共生しながら、持続可能な社会の発展に貢献することを使命とします。

2 ビジョン

学生が主体的・能動的に学び、学内外から卓越した教育機関として評価される短期高等教育拠点となる。

広い教養に裏打ちされた豊かな人間性を培い、汎用的能力（自立・想像・共生・創造）を育み、地域社会に求められる職業的専門性を身に付けさせ、実践力を高めていくことのできる職業人材を育成する。

IV 個別ビジョン

- 1 教育改革ビジョン
- 2 研究活性化ビジョン
- 3 地域貢献ビジョン
- 4 国際化ビジョン
- 5 基盤整備ビジョン

V 具体的な事業計画

ビジョン（中期計画）	令和3年度の重点事業	具体策
1 教育改革ビジョン	1 大学教育再生加速プログラム終了後の発展的継続	<p>ア 大学教育再生加速プログラム（以下「AP」（Acceleration Program for University Education Rebuildingの略。）という。）事業後の全学的な新組織の設置・運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度に設置した高等教育研究開発センターにおいて、PDCAサイクルを運用し、課題の抽出、改善策の検討を行う。 <p>イ アクティブラーニング推進機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AP事業で推進したアクティブラーニングを各教員の授業で通常化を行う。アクティブラーニングにより身についた学生の能力を測定する。 <p>ウ 学修成果の可視化機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比治山型ディプロマサプリメント（ディプロマ・ポリシーに応じた達成度だけでなく、総修得単位数、各種GPA（共通教育科目・専門教育科目等の成績から特定の方式によって算出された学生の成績評価指標。）など、卒業時の学修成果をわかりやすく学生に提示し、自身の強みを意識化させ、自己理解・肯定感を高めて社会に接続させることにつながるもの。）、4×3の比治山力（汎用性能力）の可視化を活用する。併せて、指標の再検討を行う。 <p>エ 学習サポート機能の充実</p>

		<ul style="list-style-type: none"> 学生ニーズや大学として身に付けさせたい力を踏まえたサポートを実施する。
2	本学の教育内容充実に向けた取組み	<p>ア 成績評価の厳格化と GPA の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマップの再検討を通して教育課程の再編成に繋げる課題の抽出、改善策の検討を行う。 <p>イ 教職指導センター機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度採用試験受験予定者に対する支援を継続する。 <p>ウ 管理栄養士指導センター機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 国家試験受験対策の効果の検証を継続する。
3	高-大-社会の接続事業	<p>ア 初年次教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 入試出願書類と学内情報システムのポートフォリオ機能（評価用成果物等の保存機能）を連携させ、高大接続の検討を継続する。 <p>イ CCL スキル（college skills（カレッジスキル）、career skills（キャリアスキル）、life skills（ライフスキル））習得の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 「比治山型ディプロマサプリメント」の活用方法についての検討を継続する。 <p>ウ 学修支援及び授業支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業の実施を推進する。 <p>エ 大学内外との連携の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 比治山女子中・高の体験学習「進路探究アカデミックインターン」等の連携を継続する。
7	学生を社会的・職業的に自立させるためのキャリア教育の充実	<p>ア 就職支援の活性化と社会的自立への支援</p> <p>○就職支援の企画及び実施のワーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職活動の課題（コロナ禍での就職活動の課題を含む。）を抽出し、対策を検討・実施するため、学生アンケートを継続的に実施する。（1月頃） 就職ガイダンスの検証（内容、実施方法及び学生の満足度など）を行う。 学則変更に伴うキャリア教育とガイダンスの連携を強化するために、それぞれの内容を再構築し、令和4年度から実施する。 インターンシップ、企業説明会等の情報提供を積極的に発信する。 社会的自立支援について検討する。 <p>○学科のキャリアに関わる重点目標への協力体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業の新卒採用情報の収集を目的とした情報交換会を実施する。（秋頃） 各学科でのキャリア教育の情報共有を図る。
8	主体的な学びの意欲と強靱な心身の育成	<p>ア 課外活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定の課外活動に限定せず、意欲のある個人や団体が、やりたい活動を提案することで、それに対する積極的支援を行いながら、学生が計画性や実行力を学び、より質の高い充実した課外活動ができるよう、一層の活性化を目指す。
9-①	図書館設備の充実	<p>ア 次世代型 OPAC リンクリゾルバ（各種文献データベース、電子ジャーナル・電子書籍、図書館蔵書検索システム（OPAC）等を相互にリンクさせ、必要な文献のフルテキストをスムーズに入手できるようナビゲートするシステム）の導入</p> <p>イ 補助金を利用して電子書籍の購入（マスメディア分野）</p> <p>ウ 中学校検定教科書・指導書の改訂に伴う整備（教職課程認定を受けている教科（国語・英語・美術・家庭科・道徳）に限る。）</p>

	9-② 図書館の開館時間延長	<p>ア 6月・7月の開館時間延長(19:30閉館)の試験実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の現状では実施が難しい状況にある。委員会で協議し決定する予定。 <p>イ 学生アルバイトの活用(時間外開館担当, カウンター対応, 館内装飾, オープンキャンパス展示, 利用案内, 蔵書点検等)の促進</p>
	9-1 経済的に困難な状況にある学生への支援の多様化と教育的効果のある制度の創設	<p>ア 学生への多様な経済的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 勉学意欲がある経済的に困難な学生に対して, 授業料の減免や奨学金制度以外の支援制度を策定する。
	10 広島県内のみならず優秀で志の高い入学生の確保につなげる仕組みの確立	<p>ア 広報による県外接触者数増加(志願者増)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各web広告の効果を検討し有効なコンテンツを掲出することによって, 本学の認知度向上を図るとともに, 県外ガイダンスを積極的に活用し, 接触者数増につなげる。 <p>イ 入学者確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンキャンパスや学内説明会では, 在学生による大学紹介等の企画を充実させる。また, 遠隔コミュニケーションも含めたガイダンスや大学紹介の工夫を図る。 <p>ウ 入試システム改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度から導入した入学者選抜(高大接続を基盤とした入試システム)の検証を行う。 ・ 高大接続改革の一つである入学前教育プログラムの見直しを行う。
2 研究活性化ビジョン	11 各教員個々の教育研究力向上と研究成果レベル向上, 研究活動成果発信の体制整備及び研究推進支援の充実	<p>ア 研究実施体制の整備・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度に整備した研究奨励費による研究実績の効果を検証し, 配分金額, 条件等を再検討する。 <p>イ 研究成果の有効な発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各研究者の研究は学会発表, 学術論文, 執筆として発信し, 比治山大学研究助成の研究成果は, FDや公開講座等でも発信を行う。本学の教育の質向上と学外への発信に努める。 <p>ウ 「比治山大学紀要」に「原著コーナー」を設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1論文に対し, 外部査読者2名による査読を実施し, 原著論文として掲載する。
3 地域貢献ビジョン	12 大学諸活動の「見える化」推進による地域のニーズへの対応と学科の特性に応じ学生参加型地域貢献・連携活動の推進	<p>ア 地域へのシーズの積極的発信(活動の「見える化」の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学での発信(HP, 便り)と併せ, 連携機関による発信も促す。 <p>イ 地域貢献事業(教育・研究)の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域課題に積極的な連携を行うこと, またそれらへの学生の参画を通して資質能力の向上を図る。 <p>ウ 地域貢献事業(生涯学習)の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の研究を活かした公開講座を企画・実施する。 <p>エ 機能強化と体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関, 部署と連携し, 教育効果や学術研究促進を検討する。
4 国際化ビジョン	13 国際化戦略(①学生の海外留学促進, ②留学生の受入れ促進, ③教職員に対する国際化支援)により, 学内の国際化を図る。	<p>カ 留学生への経済的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の海外留学促進に向けて, 奨学金制度を策定する。
5 基盤整備ビジョン	15 事務局業務の効率化と人事考課制度の実効性確保	<p>ア 課業の見直しと再編</p> <p>平成28年度から令和元年度において具体的に一定の成果(廃止・移管・外部委託・システム化)を上げた。事務組織の強化を図ることが根本的な目的であることから, 令和3年度施行の改正事務組織体制により, 事業の取組方法について再検討する。</p>

		<p>イ 人事考課制度の確立</p> <p>昇進時・昇給に反映させる仕組みの具体化が困難であった。事務組織の強化を図ることが根本的な目的であることから、令和3年度施行の改正事務組織体制により、事業の取組方法について再検討する。</p>
16	<p>教学マネジメント体制の確立、PDCAの実効性強化及びIR委員会機能の充実と確立</p>	<p>ア 教学マネジメント体制の確立</p> <p>実行性のある内部質保証を確立するため、運営戦略本部を中心に、PDCAサイクルの進捗管理を強化する。また、機関別認証評価への対応を行う。</p> <p>イ IR組織体制の充実</p> <p>内部質保証を支援する高等教育研究開発センターの評価・IR部門の機能性を向上させ、分析を増やし課題の発見につなげる。</p> <p>ウ 高大接続改革に伴う大学教育改革の対応</p> <p>高大接続改革において令和3年度入試から導入した新システム（入学前の比治山力調査）の入学後の変化などを踏まえ、比治山力の検証と教育改革を連動させる仕組みを開発する。</p> <p>エ コンプライアンスの確保</p> <p>コンプライアンスは、教職員倫理綱領作成において平成29年度に一旦完成したが、その後、その浸透にむけ上位目標を設定し、FD・SDでの啓もう活動を継続する。</p>
17	<p>収容定員確保のための教育組織の見直し</p>	<p>ア 大学・短大の一体改組計画</p> <p>令和元年度には大学短大一体改革は計画案を策定し、理事会において審議した。改組案実現の点においては、未達成であり継続検討する。</p>
18	<p>教育内容等に対応した施設整備、学生視点を重視したキャンパスや利便性の向上、学生生活を支えるための施設整備の充実。</p>	<p>ア (耐震対策事業)耐震対策未実施の校舎の耐震補強、改築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新3号館への什器備品搬入及び移転に係る計画を作成・実行する。 ・ 2号館解体等の実現に向けた計画を検討する。 <p>イ (キャンパス内施設・設備の再配置(最適化))学生視点を重視したキャンパスの利便性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウェルネスセンター移設工事に着手する。 ・ 給食経営学実習室、総合生活デザイン学科及び美術科実習室等の整備計画を作成する。 ・ クラブ練習室移転計画を作成する。
19	<p>情報通信技術を活かした教育環境の整備、情報セキュリティ確保、機器更新、情報センター組織の確立</p>	<p>ア 一般情報教室及びCALL教室(CALLとは「Computer Assisted Language Learning」の略称。パソコンやモバイル端末(携帯、スマホやタブレットなど)を介して、音声や動画などの教材を利用しながら、より効果的に外国語を学ぶことができる教室のこと。)の機器整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学内の各パソコン教室のMicrosoft Officeの更新 2012年に更新したバージョンのサポート切れのため、対象は以下の演習室(3)、パソコン教室(1)、CALL教室(1)、自習室(1)と準備室(3)とする。 01308~10, 05401~2, 07306~8, 07310 ・ 05401教室のクラウド版(個々のパソコンにソフトウェアやシステムをインストールせず、インターネットを通じて遠隔から利用するサービス形態)CALL・授業支援システムを導入するための環境整備 従来の機械式CALLシステムが撤去された後、学科より機械設備不要で導入費用が大変廉価なクラウド版CALLシステムを導入する要望が出ていることに対応し、このシステム導入のための環境整備を行う。 <p>イ 特殊情報教室(Macルーム、教材開発室等)整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学科予算によるIT教室案件については、従来通

		<p>り案件の承認後学科スケジュールに合わせ、設置のための助言、調達・運用支援を行う。</p> <p>ウ 情報基盤システム整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 無線 LAN アクセスポイント（パソコンやモバイル端末が無線 LAN を利用できるように、通常、壁や天井等に設置され、通信のための電波を入出力する機器）を増設する。 <p>2012 年 9 月に設置されたアクセスポイント(保守切れ)の更新, 及びアクセスポイントの少ないエリアへの新規導入を行う。(30 又はそれよりやや多い台数を増設予定。)</p> <p>エ その他情報システム体制等整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ヘルプデスク・技術職員の配置 <p>組織改編に当たり、情報システム課の業務を担当可能な技術系の人材 1 名を配置する。</p> <p>また、本学で運用中のアプリケーションの使用法等のヘルプデスク業務や貸出機器管理が可能な人材 1 名を配置する。</p> <p>後者は、配属先が教務課又は学生支援課となり、他部署の技術助手と連携して学生支援、教員支援を中心に対応するが、IT 業務上は情報システム課で連携、支援を行う。</p>
	2 0 広く社会に対する積極的な大学情報の公開	<p>ア アカウンタビリティ（説明責任）を確保するための情報公開の強化</p> <p>本学ウェブサイト、大学ポートレートにより公開内容を拡大する（質保証事項）。</p>
	2 0 - 1 広報戦略に基づく効果的な広報の推進による本学のイメージ向上	<p>ア 公式ウェブサイトの改修・管理・体制の整備及び情報発信の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツの更なる精選と充実を図り、新しい運用体制による円滑な情報発信を行う。 発信すべき情報の円滑な収集と蓄積及び目的に応じ迅速な情報更新を推進する。 <p>イ 大学広報の集約と推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 各メディアの特徴を生かしたコンテンツの精選を図る。
	2 1 学納金収入確保と外部資金の積極的導入による大学経営基盤の安定	<p>ア 補助金の獲得</p> <p>経常費補助金については令和元年度より新たに、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）及び入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を踏まえた点検・評価の実施・活用、教学マネジメント体制の整備及び IR 機能の整備などの教育の質保証に係る客観的指標が増減率の要件として追加されたため、教育の質保証を担保する取り組みを引き続き行っていく。</p> <p>改革総合支援事業については、令和元年度から執行部会で PDCA サイクルを回し始めたことにより選定水準に近いレベルまで改善が進んできた。教育の質保証に加えて、データサイエンス教育等が新たな要件として加わることが予想されるため、これらについて引き続き取り組みを行っていく。</p>
	2 2 機動的意思決定のための全般的な運営体制の再構築	<p>ア センター・委員会を含む運営組織の再構築</p> <p>類似のセンター、委員会等を統合して相乗効果を発揮させるとともに、時限的な組織は廃止する。</p>

＜比治山女子中学・高等学校＞

はじめに

令和元年度に比治山女子中学・高等学校は創立80周年を迎え、創立90周年に向けて新たなスタートを切ったところであるが、新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大に伴い、令和2年度実施予定の重点事業の多くは延期や中止、もしくは大幅な見直しを余儀なくされた。令和3年度事業計画は、平成30年度に見直しを行った中期計画の最終年度となることから、可能な限り予定通りに実施し、重点事業の目標達成を目指したいと考えている。

しかしながら、目標を達成するための具体的な取り組み等は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、感染の状況に応じて柔軟に対応する必要がある。したがって、どのような方法で実施することが最善であるか、常に見直しを進めながら目標達成のために最大限の努力を行っていく。

I 建学の精神

「親心に応え悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」人間を育成する。

II ミッション

- (1) 「親心に応えて悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」という「建学の精神」と「五訓」である「正直、勤勉、清潔、和合、感謝」を基礎に、知・徳・体を備え知性・気品・慈愛に満ち溢れる心豊かな人間性を有する女性を育成する。
- (2) 生涯にわたって、社会の変化に対応できる幅広い力を持ち、グローバル社会に貢献できるための生き方・在り方について自ら考え、判断し、行動することができる女性を育成する。

III ビジョン及び事業計画

中期計画の終了年度となる令和3年度の事業計画は、ビジョンの達成に向けて、重点事業を定め、具体的な取り組みを着実に推進していきます。

ビジョン（中期計画）	令和3年度の重点事業	具体策
1 感性や社会性を身につける学びを通して、ひとりの人間としての確かな土台をつくりあげるとともに、生徒の学力を着実に伸ばし、高い進路目標を達成している。	基礎学力の確実な定着と、それを基盤とした主体的、対話的で深い学びを実践し、更なる学力向上に取り組む。	進学コース・英語コースの卒業生全員を第一志望校に合格させるとともに、特進コースの卒業生の60%以上を国立大に合格させるために、長期休業期間中・放課後に、既習内容の応用力強化、受験対応力向上等を目的とした補習・補講を全校で実施する。
3 比治山の女子教育のブランドイメージが高まり、生徒、保護者、教育関係者から信頼され存在感のある学校になっている。	特色ある「比治山の女子教育」を推進する。	全ての授業でICTの活用等による教育内容の特色づくりを進め、各教科の校内研究授業を深化させる。 アカデミックインターン・ソーシャルスキルトレーニングなど、比治山大学の資源を有効に活用した中高大連携を推進する。
4 中期収支見込の黒字化に向け、経営改革の取組みを着実に進めている。	志願者数、入学者数を確保する。	中学校入学者数80名以上、高等学校（外部）入学者数180名以上を確保するために、充実したオープンスクール等の開催により、比治山ブランドを高める広報を充実させる。 ひじやまセミナーの開催・クラブ体験会などを通じて、部活動の充実をPRし学校の魅力アップを図る。

<比治山大学短期大学部付属幼稚園>

はじめに

付属幼稚園は、比治山学園の建学の精神の下”命を大切に””感動する心””しなやかな心”を柱として、「いきいき・のびのび・どきどき」をモットーに、基本的な生活習慣・態度を育て、豊かな心情や思考力を養い、意欲や思いやりのある子どもを育てる。という使命の下中期計画（平成28年度～令和3年度）に基づき、以下のビジョンを掲げている。

I 建学の精神

「悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」人間を育成する。

II ミッション

”命を大切に””感動する心””しなやかな心”を柱として、「いきいき・のびのび・どきどき」をモットーに、基本的な生活習慣・態度を育て、豊かな心情や思考力を養い、意欲や思いやりのある子どもを育てる。

III ビジョン及び事業計画

中期計画の終了年度となる令和3年度の事業計画は、ビジョンの達成に向けて、重点事業を定め、具体的な取り組みを着実に推進していきます。

ビジョン（中期計画）	令和3年度の重点事業	具体策
1 大学・短期大学部の付属幼稚園として、先進的な教育・研究を実践すると共に、学生の実習と多様な研究協力の場を提供している。	・重点目標を掲げての研究の実施 ・教職員研修会の充実	・教職員が一丸となって同じ目標に向かって取り組んでいる研究は、教育内容の充実のためにも必要不可欠であることから引き続き研究を重ねたい。 ・カリキュラム等の見直しを含めた研修を重ね、より丁寧な教育の実践を心掛ける。
3 安心・安全、自然環境豊かな幼児教育の場として相応しい環境づくりに努めている。	・安心、安全な施設環境整備	・転落防止用の扉の設置 ・イノシシよけ、フェンスの設置 ・小児用AEDの設置
4 定員確保に努め、財政の基盤を確立している。	・定員増と保育料の値上げの実施	・令和3年度、3歳児の定員を60名から70名に改正し、3歳児のクラス編成を2クラスから3クラスにする ・保育料を4月より23,000円⇒25,700円とする。